

平成30年度 第2回 東京都地域医療構想調整会議（島しょ）／在宅療養ワーキング

平成31年2月4日（月曜日）会場：都庁第一本庁舎27階 島しょ保健所内会議室

（意見交換）

- Web会議の活用
- 島しょ医療機関における物品、医薬品の保有・在庫状況の共有
- その他

＜Web会議の活用＞

○ 広尾病院、小笠原村診療所、区立台東病院の三者による WEB 会議の取組は、入退院医療連携の一環。島の救急患者を広尾で受入れた後、患者家族の同意が得られれば、回復期の治療として台東病院に転院させる。得られなければ、小笠原にお伝えをするという形式。2 月中には覚書を締結する見込（広尾病院）

○ 台東病院が選ばれた理由は、回復期のリハビリ施設として設備やスタッフが充実していること、台東病院のリハビリの PT(理学療法士)に約半年近く応援に来てもらったことがあるため。（小笠原村）

○ 広尾病院から他院に転院し、島に戻る際にカンファレンスをするのは他の病院でも可能か。（座長）

→ 当面は三者で様子を見たい。双方にどれぐらいの負担があるか、見極めが必要（広尾病院）

○ 島の診療で専門医療の知識を必要とすることが出た場合に、SNS 等を活用して病院の先生と簡単な方法で連携をとっているか。あるいは必要か。（東京都医師会）

→ 広尾病院へ画像を転送し読影してもらったり、治療方針を相談したりは頻繁に行っている。（小笠原村）

→ 広尾病院に画像読影のほか、専門診療に来てもらっている医師に、画像を直接メールでやり取りしている（特に皮膚科）。SNS は個人情報の秘匿化の問題があり、やっていない。（新島村）

○ WEB カンファレンスの対象者はどのように選定しているのか。（三宅村）

→ 広尾病院で、医療処置が多い、介護依存度が高い患者を選択してやっていたが、島の依頼でもやっていきたい。ただ、WEB 会議には日程調整等手間がかかるためうまくいっていないのが実情。（広尾病院）

→ そういう情報があれば予め送るか、入院後、医療連携室に相談するのがよいのか。（三宅村）

→ 可能であればそうしてほしい。記録の確認をしてタイミングよくお知らせできる。（広尾病院）

○ WEB 会議をすると、電話で退院調整をやるより方針は決まりやすいか。（東京都医師会）

→ その場での方針決定は難しいが、各職種から問題点が抽出され、後で関係者で確認可能。（広尾病院）

○ セキュリティの確立された医療用の SNS を使うと楽になるのでは。具体的には、MCS とカナミックの TRITRUS。導入にも維持にもお金はかからない。患者さんのタイムラインを作って LINE のように使える。WEB 会議をするにしても関係者をまとめたタイムラインを作れば日程調整も楽。（東京都医師会）

→ スカイプの匿名性はどうか。台東病院とスカイプで多職種カンファをやったことがある。（神津島村）

→ スカイプは我々も退院前カンファに導入しようかと考えている。いい手段。MCS ではテキストメッセージのほか写真の切り貼りもできる。また費用は無料。（東京都医師会）

- WEB 会議システムの事前申請というのは、どのくらいの時間でできるか。(座長)
- 医療政策部で処理をするので、休日をはさんでしまうと難しいが平日なら1日程度。(医療政策部)

<島しょ医療機関における物品、医薬品の保有・在庫状況の共有>

- 先日、骨髄針の共同購入の話があった。滅多に島では使わないが、ないと困るものを購入する際、1個から買えるものもあれば、10個でしか買えないものもある。そういう場合共同購入が選択肢に挙がるが、各島の物品の状況を東京都でまとめておけば有効では。また、災害時に、各島のリソースの状況を把握していれば、支援物資を送る際の判断材料になるのでは。(新島村)
- 青ヶ島は御蔵島と利島と共同購入している物品がある。それでも使わなくて期限切れになるものもある。この三島でも部分的にしか共有できていない。一元管理してもらえるとありがたい。(青ヶ島村)
- 薬事法の問題で医療機関が一度購入してから、他の医療機関に売るとか、あげることはできない。共同購入をして、買ったものを使わなければ一斉に期限が来るが、一つの島で使用し補充の必要がでると、ニーズのタイミングが合わなくなる。ある程度使うものは、各島で買わなければならない。ほぼ100%期限切れになる物品には共同購入も有効だが、それ以外は難しい。もし何か不具合や異物混入があったときに、状況を把握できないといけない、というのが理屈。衛生材料的なものは問題とならない可能性はある。問題解決の糸口としてよいのではないか。(医療政策部)
- 島しょ地域では医者が2年程度で交代になり、共同購入の仕組みもうまく引継ができない。物品管理の主導権も医師がやるのではなく、それぞれの島で長くやっている看護師等にやってもらうというのがよいとも考えている。(新島村)

<その他>

- 最近、抗がん剤の進歩やがんの早期発見で、がんの闘病自体が長期間になっている。島しょ地域にはがん診療連携拠点病院がないが、がん拠点病院を島しょ地域でも整備してもいいのでは。これまでは救急医療を中心に広尾病院にお世話になることが多かったが、頻度の低いがんや抗がん剤治療が長引く患者は、経験上広尾病院以外に送ることが多い。今後広尾病院にどういった形でがん治療をお願いしていくか、あるいは別の病院をお願いするのか。次回以降こうした議論もできればと思う。(青ヶ島)